

異教の記憶としての舞踏

14世紀イタリアのイスタンピッタ舞曲

講演&ワークショップ 中川つよし (古楽器奏者)
中世・ルネサンスダンス 飯塚直

2013年5月18日(土) 14時 - 17時
入場無料

東京大学駒場キャンパスコミュニケーションプラザ 身体運動実習室 1 (生協の建物の3階)
※かんたんなワークショップがありますが着替などの必要はありません



わたしたちの身体には、近過去からはるか古代の記憶までが内在しているのではないだろうか。現在の身体にその痕跡をさぐるため、「記憶と身体」をテーマに3名の講演者がそれぞれ「身体技法」「身体音楽」「身体文化」をキーワードに、レクチャーとワークショップから明らかにしていく。第2回目「身体音楽」では、中川つよし氏による中世・ルネサンス音楽の図像学的考察と、ダンスによるワークショップが行われる。

14世紀イタリアのイスタンピッタ舞曲と呼ばれる作品群は、当時の貴族たちが宮廷で踊っていた社交的な舞曲とは異なり、ある特別な意味を持った鑑賞用の舞踏音楽であったのではないだろうか。これらの楽曲を踊ったであろうジョングルー(職業的芸人)の図像学的考察から、イスタンピッタがキリスト教社会が成立する以前の「異教的な舞踏」のイメージを「記憶」として持っていたと推察する。アウロス笛の伴奏で踊るバッカスの巫女の狂態がイスタンピッタに重ね合わされているのではないかと推察する。ワークショップでは中川氏のリコーダーと古楽器奏者・飯塚直氏の指導で、宮廷舞曲パヴァーヌやブランルなどの舞踏を踊り、ルネサンス時代の「身体音楽」を体感する。

中川つよし NAKAGAWA Tsuyoshi
ロンドン市立ギルドホール音楽院古楽科に留学。成城大学大学院博士課程前期修了(美学・音楽学専攻)。リコーダーの奏法および中世～バロック音楽の演奏解釈を大竹尚之、フィリップ・ピケット、パメラ・トービーの各氏に師事する。[アンサンブル雲水] [アルテミス・コンサート] 代表。古楽のスペシャリストとしての演奏活動のほか大学などで西洋音楽史の講義を担当、また音楽療法の分野でも活躍。和光大学非常勤講師、国立精神・神経医療研究センター音楽講師。